

1. 教授要目（全学科目・1年次専門科目）

I 文系科目・総合科目

文系導入科目

人間の知識表現と論理的言語（Logic and Knowledge Representation）

（平成24年度休講）

藁谷 敏晴 教授 前学期 2-0-0

現代文明は、コンピュータ抜きでは考えられない。さて、数理論理学はコンピュータの理論的基礎の重要な基礎である。無論、論理学自身はギリシャの昔からあったが、19世紀末から今世紀にかけて「数学化、数学的学問としての整備」が行われた。こうしてできあがった数学化された論理学を「数理論理学」といい、これが現在のコンピュータ、コンピュータ文明の基礎をつくっている。

ところで、先ほど述べたように、現代文明はコンピュータ抜きには考えることができないことを考えると、数理論理学に関する一応の基礎的理解は学科によっては必須の知識であり、たとえ必須ではなくとも、こうした知識をもつことは望ましい。さて、数理論理の理解には二つの局面がある。一つは技術的側面であり、一つはそれを支えている哲学的思想的側面である。本講義では現代の数理論理学の哲学的側面を、人間知識の表現や推論などを例にとって、論ずる。数理論理学の知識は、もちろん不要である。

意思決定の基本ロジック（Basic Logic of Decision Making）

木嶋 恭一 教授 後学期 2-0-0

住宅の購入、就職先の決定、新製品開発等々、我々の周りには意思決定が必要な様々な分野・レベルの意思決定状況が満ちあふれている、本講義は、そのような複雑性に満ちた意思決定状況に対処する、合理的な意思決定の基礎的な考え方（ロジカル・シンキング）について解説することをねらいとする。「意思決定とは何か」から始め、複雑性の分類とそれらの取り扱いの方法とモデルまで、1回読み切り形式で話題を提供する。高校時代には体験しなかった社会や人間の振る舞いに対する数理的なアプローチの一端を述べるだけでなく、その最先端の話題まで言及する。

世界文学入門 I（Introduction to World Literature I）

市川 伸二 教授 劉 岸 偉 教授 安德 万貴子 准教授 北川 依子 准教授

薩摩 竜郎 准教授 三ツ堀 広一郎 准教授 F.ジャン 外国人教師

前学期 2-0-0

国際化時代に異文化理解は必須の課題である。そのためには、世界各国の主要な文学作品を通して、諸国民の考え方、感じ方、つまりは「心性」を理解するのも一方法であろう。本授業は、「文学とは何か」を皮切りに、ドイツ・フランス・ロシア・中国・英米の代表的作品（小説・詩・思想等）を鑑賞・考察する。授業は外国語研究教育センターの教員が、それぞれの専門を踏まえ、オムニバス形式で行うが、当該外国語の知識はなくてもよい。

世界文学入門Ⅱ (Introduction to World Literature II)

(平成24年度休講)

未定 後学期 2-0-0

授業内容はⅠに同じ。採り上げる作家・作品等は異なる。

コラムランド (Column Land) SC : (H23登録) 創造性育成科目

山室 恭子 教授 前学期 1-1-0

まっしろな紙のまんなかにはぽつりと1行 —— あなたの大切な人は、誰ですか。

これもまたコラムです。2005年度夏の陣、「問」セッションの3位入賞作品。2002年度夏の陣、「愛」セッションで首位をさらい伝説となった「欲しい。」につぐコラムランド史上2番目の短さでの入賞でした。

と、ここまでで「コラム」という言葉の既成イメージを崩していただけたでしょうか。コラムランドでの「コラム」は何でもあり。ときに爆笑、ときにしみじみ、そうやって友人たちの作品を堪能しつつ、自分もその中に参戦してゆくことで、文章力と発想力と、そして度胸が鍛えられるしくみです。

B5一枚のまっしろな紙がキャンバス。自分の中の可能性を探してみませんか。 —— あなたの大切な人に、思いを伝えるために。

意思決定理論の展開 (Improvements of Decision Making Theories)

猪原 健弘 教授 前学期 2-0-0

意思決定理論、特にゲーム理論は、様々な形で拡張され多くの分野を派生させている。実際、メタゲーム理論、ハイパーゲーム理論、ソフトゲーム理論などはすべて非協力的ゲーム理論から派生したものである。この講義では、それぞれの理論の特徴について解説していく。

There are many variations and generalizations of decision making theory, in particular, game theory. In fact, metagame theory, hypergame theory, and soft game theory come from non-cooperative game theory. In this lecture, introductions to these theories are provided.

日常生活と法 (Daily life and Law)

金子 宏直 准教授 前学期 2-0-0

日常生活で関係する法律問題に関心を持ち、社会人として必要な法律知識を学ぶ。参加型講義を行います。

現代科学技術と社会 (Science Revisited: An Approach to Science and Technology Studies)

中島 秀人 教授 前学期 2-0-0

科学技術と社会の間に起こる諸問題について、テーマを毎回変えながら議論する。知識を修得するというよりは、問題をとらえる方法を学ぶ。特定の視点を会得するのではなく、同一の問題を多様な観点から処理するスキルを獲得して欲しい。授業の評価は、レポート50%、出席50%を目安とする。教科書は使用しない。

都市のシステム (Topics on Urban Systems)

°十代田 朗 准教授 他 社会工学科各教員 後学期 2-0-0

現代文明の集積である都市をテーマに、都市と社会の関わりを考慮しつつ、都市の様々なシステムについて、社会工学科の各教員が今日的話題を中心に、社会工学の立場から都市へのアプローチを論ずる。

科学者とは何か (Creating Scientists : from the Tokyo Tech to Stockholm)

梶 雅範 准教授 後学期 2-0-0

現代社会において科学者（研究者）がどのような位置にあり、どのような役割を果たしているのか。現状はどうであるのか探り、研究者への道を紹介し、現代の科学者（研究者）には何が要求されているのかを考え、科学者（研究者）をめざす人への導きになることをめざす。

現代社会への視点 (Viewpoint to the contemporary society)

今田 高俊 教授 後学期 2-0-0

現代社会は複雑怪奇で、私たちの理解が及ばないことが数多く発生しています。本授業では、現代社会を眺める視点を様々な角度から学ぶことで、社会を見る眼を養うことを目的としています。たとえば、リスク社会の問題、階層格差の問題、電子メディアとIT革命の問題、家族崩壊の問題、公共性の問題などを題材にして、オムニバス方式で現代社会を読み解く術を学びます。

交渉で学ぶ政治学入門 (Role Playing Political Science)

蟹江 憲史 准教授 後学期 2-0-0

政治が生活や研究の中にも入り込んでいる現代社会ですが、政治学と聞くと、理系の皆さんにはあまりなじみがないかもしれません。

しかし、政治学はこれからの社会を生き抜いていく上で、最低限身につけておくべき学問でもあります。

本講義では、「交渉」を素材としたロールプレイングをいくつか実践しながら、政治学の様々な課題を実践的に学んでいく入門講座です。

風景学入門 (Introduction of Landscape Study)

桑子 敏雄 教授 前学期 2-0-0

「風景の目利きになる」

風景は、人間が自分の環境に対して行ってきた行為を映し出す鏡です。日本の風景のなかに、日本の思想と文化があります。

風景の見方を学ぶことによって、環境について考え、また、自分自身の姿を学ぶことができます。

本講義では、身の回りの風景に対する目利きになるためのトレーニングを行います。あわせて、まちづくりや公共事業への参加のあり方や合意形成のプロセス、その中で行われる議論の進め方などについても実践的に学びます。

心の科学の思考法 (Paradigms of the Science of Mind)

往住 彰文 教授 前学期 2-0-0

心という、物質として存在するわけではない対象を相手にして格闘しなければならないところに、心理学の困難さと醍醐味がある。心の科学者は、何世紀にもわたる研究を続けようとも、心そのものに手をふれることも、心そのものを目にもすることもできないのである。そこで、心の科学者は、人間のふるまい、体験などを手がかりとして使いながら、心の本質に迫る方法を開発しなければならない。心理学の歴史は、こうした研究方法を編み出す歴史でもあった。

本講義では、実習を多用し、手元にあるわずかの手がかり（データ）から、どのようにして心の性質を推論するのかを、体験的に学習することを試みる。

パフォーマンス論 (Study on Performance)

上田 紀行 教授 後学期 2-0-0

様々なパフォーマンスに接して、「感性」を磨く講義である。パフォーマンスとは何か、なぜ人間は言語だけでなく、身体を使い、曖昧とも思える表現方法を取るのか。演劇、音楽、祭などにおけるパフォーマンスを幅広く取り上げ、パフォーマンスの本質、その解釈などについて論じる。

社会のモデル入門 (Introduction to modeling in social science)

中丸 麻由子 准教授 後学期 2-0-0

文系基礎科目の数理社会学第一および第二の導入にあたる講義を行う。(1)進化ゲーム理論による人間社会や行動に関する研究が行われているが、そのための基礎的な知識を提供する。(2)コンピュータ上でシミュレーターやExcelなどを用いたデモンストレーションを行いながら様々な社会モデル研究について紹介する。

ゲーム理論入門 (Introduction to Game Theory)

武藤 滋夫 教授 後学期 2-0-0

社会・経済システムを数理的に記述し分析する理論である「ゲーム理論」について、その数学としての理論的基礎を提供した上で、経済学、経営学、社会学、政治学など社会科学への適用例を紹介する。まず、非協力ゲーム、協力ゲームの表現形式、解概念を紹介した後、企業の合併、公共財の供給、オークション、共同事業における利益の分配、投票による意思決定、社会的な慣習の形成など、さまざまなケースのゲーム理論による分析を紹介する。授業の最後1,2回は、受講生にゲームに関する実験を行ってもらい、われわれ人間がゲーム理論の予測通りに行動するかどうかを検証してみる。

社会意識論 (Values, Attitudes and Public Opinion)

谷口 尚子 准教授 前学期 2-0-0

「社会」や「公共の事物」に対する我々の意識・態度は、様々な要因の影響を受けて形成され、また相互に影響を与え合いながら変化する。現代社会における世論、価値観、メディアの研究をベースに、我々が何を問題として共感し合い、また対立し合うのか、その様相を学ぶ。

人文芸術導入 (Introduction to Arts and Humanities)

橋爪 大三郎 教授 前学期 2-0-0

科学者、技術者、専門家への道を目指して理工系の大学に入学し、人文や芸術、社会科学を学ぶ理由はなにか。人類社会と文明の過去・現在・未来をどう理解すればよいか。さまざまな講師の講演や、グループ討議、グループワークを交えて、文系の学問を学ぶエネルギーを培う、2012年度新設の授業です。

ニュースから現代を見る (Knowing the world by news)

池上 彰 教授 後学期 2-0-0

受験勉強が終わって大学に入学したら、学習と研究・実験に忙しく、ニュースを見ることがない。あなたは、こういう学生ではないだろうか。学生も社会の一員であり、社会を構成する上での責任が生じる。社会を知るためにニュースは必須のアイテムである。

とはいえ、テレビや新聞を見る時間がなかったり、見ても理解できなかったりすることも多いだろう。そのニュースは、どういう意味なのか。どんな背景があるのか。それぞれの時点での最新のニュースを取り上げ、一緒に考えていきたい。

文系基礎科目

倫理学 (Ethics)

桑子 敏雄 教授 前学期 2-0-0

倫理とは人間の選択する行為の規範です。倫理は個人の内面に形成された規範であることで、社会的に制度化された法規範と異なっていますが、現代社会では、このふたつの規範の間は狭まっています。倫理は、行動規範やガイドラインといった形で整備される一方、しつけや教育によって社会的に形成されるだけでなく、個人の意思のもとで形成されるので、ひとの生き方にも深く関わっています。本講義では、以上のような倫理の本質について論じるとともに、現代社会が要請する生命倫理、環境倫理、企業倫理、科学技術倫理等について論じます。

哲学 (Philosophy)

桑子 敏雄 教授 後学期 2-0-0

哲学とは人間と世界の根源的な関係を問う営みです。本講義では、哲学とは何か、どのように生まれたかという問いから始めて、東西の哲学的思考の特色を論じた後、哲学の諸問題について論じつつ、哲学の基本的な問題群を理解するための講義です。抽象的な話題ですが、できるだけ分かりやすく、具体的な問題に即して論じる予定です。

論理学第一 (Logic I)

藁谷 敏晴 教授 東 克明 非常勤講師 前学期 2-0-0

便宜上論理学を命題論理と述語論理に分けて論ずる。

第一では主に命題論理を扱うが、できるだけ述語論理の構造が明らかになるように講義を組み立てる。内容は命題論理の体系をいろいろな理論的角度から考察し、完全性や決定可能性その他のメタ論理的概念を説明し、それらについて成立するメタ定理について論ずる。

論理学第二 (Logic II)

藁谷 敏晴 教授 東 克明 非常勤講師 後学期 2-0-0

第二では述語論理の構造を扱うが、その際命題論理の無限への拡張と述語論理の体系の関係について考察する。さらに、述語論理の背景となる哲学的な諸問題を論じながら、モデルの概念を導入説明し、完全性や決定可能性等に関するメタ定理を証明する。さらに、述語論理と知識表現論の問題などについても論じる。なお、第二の履修に際しては第一を既に履修していることを条件とする。

西洋近現代思想史 (History of Modern Western Thoughts)

山田 有希子 非常勤講師 前学期 2-0-0

「思想」とは「いかに生きるべきか」の指針になるものであり、さらに、ある哲学者によれば、精神的かつ物理的な意味において、防衛と攻撃の「武器」ともなりうるものである。周知のごとく、とりわけ「西洋」「近代」思想が現代社会に与えてきた影響は、宗教、政治、経済、科学技術等々の多方面において無視できない多大なものがある。本講義のねらいは、時間的・空間的に遠い異国の思想を通覧するととどまることなく、同時に、我々自身のリアルタイムの社会問題（環境問題、先端医療技術倫理問題、経済問題等々）の根幹を押さえることにある。

日本思想史 (Intellectual History in Japan)

畑中 健二 助教 前学期 2-0-0

日本における「近代」というテーマで、テキストや図像に即して論じます。

文明開化とは、西洋近代の科学技術や社会制度の導入であると同時に、従来の思想の上に「近代」という時代特有の価値観・嗜好を上書きする過程でもありました。「近代」は、人々に（そして私たちにも）何を忘れさせ、代わりにどんな美しい夢を与え、どんな不安や幻滅をもたらしたのか。十八世紀から二十世紀にかけて日本に現れた諸思想を振り返り、道徳・宗教、異文化観、怪異への関心、女性像、機械イメージなど具体的なトピックに即して「近代」とは何であったかを検討します。

近代文学 (Japanese Modern Literature)

小林 広一 非常勤講師 前学期 2-0-0

まず、近代日本の傑作小説の母胎となった「文章」が、どんな思想や形而上学を築いたのか、またそのことで後世の小説家たちの「小説」にどんな影響を与えたのか、ことに「私小説」の成立について、学ぶ。近代日本にとって「私」とはいったい何であったのか、「私小説」の伝統と、この伝統とあらがった作家たちの苦闘について探る。

それらの「文章」や「小説」の決定的シーンを取り上げて鑑賞し、なぜ優れているのかについて、概説していく。

古典文学 (Japanese Classics)

津島 知明 非常勤講師 後学期 2-0-0

テーマ 古典文学再入門

私たちの前には「日本古典文学」と呼ばれる数々の作品が存在します。ところが実際、それらはなぜ「古典」たり得ているのでしょうか。単に「古いから」ではおそらくないはずです。ここでは『枕草子』『源氏物語』という、よく知られた作品を取り上げながら、なぜそれが「古典」と認定されてきたのか、そして、いま私たちとどのような対話が可能なかを、考えていきたいと思っています。

国語 (Japanese)

(平成24年度休講)

未定 後学期 2-0-0

柳田国男の『遠野物語』の世界を紹介する。『遠野物語』は20世紀初頭の岩手県遠野地域の伝承を集めたもの。日本民俗学の古典だが、名文の誉れ高く、山男・山女、河童、ザシキワラシ等々の登場する話で一般にも広く知られている。講義では、有名な話のいくつかに焦点を絞り、分析をほどこすことで、物語というものの仕組みを明らかにし、それがたんに百年前の東北地方の問題ではなく、現在の我々の想像力や宗教意識、霊魂観や自然観、さらには物の考え方にまでかわる重要な問題につながることを明らかにしていく。

テキスト『遠野物語』（角川文庫）

日本文学 (Japanese Literature)

恋田 知子 非常勤講師 後学期 2-0-0

人類の普遍的なテーマである「愛」と「死」は、古今東西の文学作品に描かれ続けてきました。本講義ではとくに、そこにひそむ「エロス」や「グロテスク」をテーマに、古代から現代にいたるまで、さまざまな文学作品を取りあげ、考察していきます。それぞれの作品を読み解くことで、作品が成立した時代固有の文化や思想を理解しながら、時代を越え、全体を貫く普遍的なるものを明らかにし、日本文学の魅力を味わいます。

コラムキングダム (Column Kingdom) SC : (H23登録) 創造性育成科目

山室 恭子 教授 後学期 1-1-0

陸地（くがち）へと聳え立つ王国 —— 前期の文系導入科目「コラムランド」で、ものを書くことのむずかしさとおもしろさに覚醒した諸賢に、さらなる試練の場を提供するために開講されています。もちろん後期からの参加も歓迎。

文章力の高き嶺へと優雅に飛翔するか、暴走妄想の快楽の沼にまったり浸るか、それは好み次第。

社会言語学 (Sociolinguistics)

西條 美紀 教授 前学期 2-0-0

社会言語学はことばと社会の関係を扱う学問である。下位分類として、社会の中の言語のバリエーションを考える言語変異論、ことばの使いかたについての政策などを扱う言語政策・言語計画論、個人のコミュニケーションと社会の関係を扱う言語行動論がある。この講義では、これらの分野について概括するが、主に言語行動論に焦点をあて、具体的な会話の事例などを分析しながら、個人間の意味交渉や個人内の会話方略などについても考える。自分のコミュニケーションについて自省したい学生の積極的な参加を歓迎する。

情報社会とコミュニケーション (Communication in Information Society)

(平成24年度休講)

野原 佳代子 准教授 後学期 2-0-0

人間は、情報を記号に載せてお互いに伝え、解釈し、とり込み合いながら共存しているものである。情報社会と言われるながらも、情報共有の前提が持てない不安定な現代のコンテクストにおいて、人はどのようにしてメッセージを受信・発信していくのか。

本講義は、「解釈」「とり込み」「翻訳」「操作」といった、コミュニケーションにおいて発生する行為に焦点をあて、それらのメカニズムについて考える。扱うコミュニケーションの種類は言語によるもののみでなく、サイエンス、アート、音楽、デザインを介したものなど多岐にわたる。講義形式をとるが、学生によるグループワークやディスカッションも取り入れていく。

理論言語学 (Theoretical Linguistics)

畠山 雄二 非常勤講師 後学期 2-0-0

私たちヒトの脳の中には「文法」がある。この「脳内文法」のおかげで、私たちはことばを生み出し、それを理解することができる。はたして、この「脳内文法」のメカニズムはどうなっているのでしょうか？この問いに対して科学的な説明を与えること、これが本講義のねらいである。

また、本講義では、なぜ子どもは短期間のうちに母語をマスターすることができるのか？なぜ子供は国籍を問わずいかなる言語をもマスターすることができるのか？なぜ私たち日本人はなかなか英語をマスターすることができないのか？等の素朴な疑問に対しても科学的な説明を与えていきたい。

さらに、本講義では、「脳内文法」がいかにして私たちホモサピエンスにのみ創発したのか、いわゆる言語の進化の問題についても考えてみたい。このような言語の系統発生の問題に触れながら、人間を人間たらしめるものが何かについて深い洞察を与えていけたらと思う。

なお、私はちょっとしたミュージシャンということもあり、時間が許せば、言語と音楽の相関性についても触れ、私たちヒトがいかなる生き物であるのかについても探っていけたらと思う。そして、言語と音楽を使い、そしてそれを楽しむことができる唯一の生き物であるヒトが、いったいどのような生き物であるのか、意外なアングルから迫ってみたいと思う。

音楽文化論第一 (Music Culture I)

横溝 綾 非常勤講師 前学期 2-0-0

西洋芸術音楽とキリスト教は密接にかかわり合っています。そこで本講義では、前期は中世から古典派前期の音楽を通して、はじめは宗教儀式の一部であった教会音楽が、どのような過程を経て教会の外にまで影響を及ぼしていったのかを考察します。

音楽文化論第二 (Music Culture II)

横溝 綾 非常勤講師 後学期 2-0-0

西洋芸術音楽とキリスト教は密接にかかわり合っています。後期は前期の講義に引き続き、古典派中期以降の教会音楽の変遷を考察するとともに、世俗曲におけるキリスト教の影響にも注目していきます。

オペラへの招待 (Introduction to Opera)

山崎 太郎 准教授 後学期 2-0-0

オペラは歌とオーケストラ、舞台美術と衣装、言葉と演技といったさまざまな要素が一体となって、愛と死をめぐる人々の情念と社会の複雑な様相を描き出す総合芸術である。視覚と聴覚の相乗効果には何ものにも代えがたい魅力があり、それゆえに16世紀末の誕生以来、貴族社会から市民社会へのヨーロッパの歴史の変遷において、娯楽と教養の対象として発展を続け、現在、世界的な舞台芸術としての地位を確立するにいたっている。本講義では代表的な作品をいくつか紹介。各作品をさまざまな角度から掘り下げ、その魅力に親しむことで、現代の私たちにとってオペラが持つ意味を考え、ひいてはヨーロッパの社会と文化の成り立ちをより深く理解するための一助とする。

美術史・美術理論 (History and Theories of Art)

(平成24年度休講)

未定 後学期 2-0-0

イタリア・ルネサンス期の主要な芸術家と絵画・彫刻・建築作品の流れを追いながら、レオナルド・ダ・ヴィンチやミケランジェロら芸術と科学に通じた天才を輩出した社会的背景を明らかにしたい。

大江戸講 (Virtual Tour to Edo) SC: (H23登録) 創造性育成科目

山室 恭子 教授 後学期 1-1-0

鍛えようプレゼンテーション力。

ちゃんと人前で話せますか？

この講義では、江戸の人たちの世界に親しみ、その元気なユーモアのセンスに学びつつ、自らのプレゼンテーション力を鍛えることを目指します。

ある週は江戸の見世(みせ)めぐり、ある週は怪談話に興じ、そのつぎは番付ダブルス。毎週、趣向を変えたメニューを楽しみつつ、少しずつステップアップしてゆけば、半年後、きっとあなたはプレゼンの達人。

歴史学 (History)

山室 恭子 教授 前学期 2-0-0

しっかり人類の起源から説き起こします。ユーラシア大陸に文明が芽生えたわけを地球規模で考察しつつ、文明の興亡の意味、ナショナリズムという怪物など世界的なトピックをいくつか経て、後半は日本の戦国から江戸時代へ。武田信玄・上杉謙信、そして信長・秀吉・家康と天下を争った英雄たちを訪ね、花の江戸の繁栄に遊びつつ、政治の意味、す

なわち人々を治めるとは何をすることなのか、を問います。

歴史家はどんな手法で史実を彫り上げてゆくのか、という歴史学の〈方法〉に触れていただくのが主眼なので、予備知識は不要です。

現代史 (Contemporary History)

布施 広 非常勤講師 後学期 2-0-0

担当教員は新聞社の論説委員で、主に国際政治に関する社説・論説を執筆しています。日本と世界で起きる事象をどのように受け止めて何をすべきか、新聞社としての意見を述べたり問題提起するのが主な役割です。いままさに脈打っているニュースも含めて、重要な出来事とその背景を分析し、日本と世界のあり方を考えます。現代社会を生き抜くタフな洞察力と知性を養ってほしい。

メディア心理学 (Media Psychology)

岩男 征樹 助教 前学期 2-0-0

従来の研究では、メディアに媒介されたコミュニケーションを情報伝達と捉えるシャノン・ウィーバーのモデルが基本であった。しかし、近年、そのモデルでは限界があることが次第に明らかにされており、新しいメディア観に基づいて日常生活の中の「メディア実践」を直接検討する研究が増えてきている。本授業では、メディア実践の理論的枠組みについて具体的研究を取り上げながら紹介し、さらには、実際にケータイやインターネットを用いてメディア実践を体験しながら、それを捉える方法も紹介する。

心理学 (Psychology)

往住 彰文 教授 後学期 2-0-0

人間の心のメカニズムについて、最新の研究成果をとりあげながら概観する。思考、記憶、意思決定、知識、感情、人格、発達、社会が、主要なトピックである。簡単な実験や調査をおりまぜた授業形態で、講義を進める。

認知科学 (Cognitive Science)

往住 彰文 教授 前学期 2-0-0

「心の科学」の新しい展開として、心理学、人工知能学、言語学、神経科学、文化人類学などをクロスオーバーする認知科学という領域が形成されつつある。人間の心について、どのような理論が提案されているのか？心理学の観点から、認知科学の最前線を探る。

テキスト解釈論 (Text Hermeneutics)

村井 源 助教 前学期 2-0-0

文書に書かれたことばの意味は一通りとは限らない。文書の書かれた時代背景・文化・言語・修辞法などの文書自体の特徴に合わせて、他の文書との関連性、文書を読む側の視点の問題なども踏まえることによって深遠な意味の世界が開けてくる。講義では、文書の意味を理解するためのさまざまな手法を、実例を挙げつつ紹介していく。

神経心理学 (Neuropsychology)

柴崎 光世 非常勤講師 前学期 2-0-0

神経心理学は、脳損傷者の示す多彩な心の障害（高次脳機能障害）を手がかりとして、心と脳の関連性について検討を試みる心理学の一領域である。授業では、はじめに脳の解剖学や代表的脳疾患など神経心理学の理解に欠かせない基礎的

知識を確認した後に、史的展開、研究法、種々の高次脳機能障害といった神経心理学の本論について講義していく。神経心理学における代表的研究成果をもとに、私たちの心の営みとそれを支える神経過程について考えていきたい。

臨床心理学 (Clinical Psychology)

未定 非常勤講師 後学期 2-0-0

各種精神疾患およびそれらにかかわる実証的研究を、心理検査の体験をおりまぜつつ紹介します。

臨床心理学および精神保健学という学問分野の「研究」「調査」といったものに対する理解を深めることを目的とした講義です。

文化人類学 (Cultural Anthropology)

上田 紀行 教授 前学期 2-0-0

現代の世界的危機の根源を探り、その乗り越えをイメージしながら、文化人類学の入門を行う。文化の二面性、現代に至るまでの人類史の流れ、文化の習得と再創造などを講義するほか、受講者自身が自ら体験するワーク、ゲーム、ディスカッションなども行うので、積極的に参加して、自分を知り、他を知るきっかけとしてほしい。

文化社会論 (Culture and Society)

上田 紀行 教授 後学期 2-0-0

なぜ人類社会には「差別」や「暴力」が存在するのだろうか。そしてそこからの開放にはいかなる戦略が必要だろうか。「宗教」はその解決になるだろうか。前半では、差別や暴力を実例とともに論じ、後半では宗教の可能性と問題点を論じる。講義のみではなく、受講者参加によるワークやディスカッションも行われるので、積極的に参加してほしい。

憲法 (Constitution)

松村 芳明 非常勤講師 後学期 2-0-0

憲法や日本国憲法については、初等・中等教育でも一部教育されます。また、マスメディアやインターネットにおいて、憲法や日本国憲法に関する事柄がとり上げられることがあります。そのような素材から多くの日本人は、憲法・日本国憲法に関して常識的な考え方を持つに至っていますが、実は、そのような常識的な考え方は、憲法・日本国憲法に関する専門的な見方と、大きくずれていることが多いのです。例えば、日本社会が抱えるいくつかの重要な問題を解決するためには日本国憲法を変えることが最も手っ取り早いと考える人もいますが、専門的に言うと、そのようなことは望めません。日本国憲法は、いじめやセクハラのような問題に直接対応するすべを持ち合わせている法ではありませんが、それは当たり前のこととされているのです。また、日本国憲法は60年以上前に制定されたためにプライバシー保護や環境問題のような時代の要請に答えられていないから変えるべきだと言う人もいますが、専門家でそのようなことを真面目に言う人はあまりいません。

このように、大学で学ぶ専門的な憲法学は、多くの点で、これまで皆さんが持ってきた憲法・日本国憲法に関する常識的な考え方に対して、まったく新鮮な知識を与えてくれるものです。

この講義は、日本国憲法を含む憲法とはいったい何なのかについて、とくに憲法が保障する人権についての知識領域を中心に、学んでゆくものです。その際可能な限り、日本社会のリアルな問題状況を憲法の言葉に翻訳するにはどうすればよいか、という姿勢を保とうとするものです。

期待と覚悟をもって臨んでみてください。

法学 (Law)

金子 宏直 准教授 前学期 2-0-0

民法を中心にして法律学の基礎的概念を学ぶ。法制度のしくみ、六法のつかい方をはじめとして、民法における人、物、権利の性質等、民法総則を主に学習します。

民事手続法 (Civil Procedure law) (偶数年度開講)

金子 宏直 准教授 後学期 2-0-0

民事訴訟法に関する基本的・理論的な学習を行う。また、民事司法制度の仕組み、裁判以外の紛争処理(ADR)等との比較を行い、権利保護と民事法的救済のありかたについて、具体的な事案や判例を取り上げつつ学習を行う。(2010 年度までの「民事法」と同じ)

倒産処理法 (Bankruptcy Law & Corporate Rehabilitation) (奇数年度開講)

金子 宏直 准教授 後学期 2-0-0

多重債務者や消費者破産、大企業の再生等が問題になっている。これらの事案の処理を行うのが倒産処理法である。この講義では、破産法を中心に、民事再生法等の倒産処理手続に関する法律を学習する。倒産処理手続の目的、経済的再生や人的・物的資源の再分配等の機能についても多角的に学習する。

国際関係論第一 (International Relations I)

蟹江 憲史 准教授 前学期 2-0-0

本講義は地球環境問題に関する国際関係という具体的課題を取り上げ、これを通じて現在国際政治を論ずる。現代社会で深刻化する地球温暖化やパンデミックインフルエンザといった、いわゆるグローバルな課題は、一国だけで解決することが不可能な問題群である。その一方で、国際社会の基本的構成単位はといえば、「世界政府」といったものがあるわけでもなく、あいかわらず「国家」である。このように、国境を超え、あるいは国境の有無にかかわらずに広がりを見せるグローバルな課題と、「国家が基本単位の国際関係」というギャップの中で、問題をどのように解決していけばよいのであろうか？この講義では具体的課題を取り上げながら、国際関係の諸問題解決の糸口を探る。

国際関係論第二 (International Relations II)

蟹江 憲史 准教授 後学期 2-0-0

この講義では、国際関係論の基本となる見方・考え方について学習する。国際的相互依存の進んだ現代社会では、日常生活でもあらゆる場面で国際関係の一端が見え隠れしている。現代国際関係は、もはや国家と国家の関係に限定されるものではなく、市民と市民、企業と企業、あるいは国家と企業や科学者と国際機関など、様々なレベルで成立している。こうして複雑化する国際関係を理解するにはどのような視座が必要なのだろうか。本講義では、現代社会を理解するうえで最低限必要となる国際関係論の知識体系の習得を目指す。

政治学第一：政治過程論 (Political Science I)

谷口 尚子 准教授 前学期 2-0-0

本講義では、現代政治学、特に「政治過程論」の基礎的理解を目指す。以下のトピックに関する諸理論、具体的研究例、実際の日本政治との接点等を学ぶことを通じて、自分なりの「政治の見取り図」を構築してもらいたい。政治・経済に関する一般的素養の獲得、また各種試験（就職試験、公務員試験）の準備等にも有用な内容を含む。

1. 政治学の基礎概念

2. 民主主義論
3. 現代政治における対立軸
4. 立法過程
5. 政策過程
6. 選挙過程
7. 政党制

政治学第二：現代日本の政治 (Political Science II)

境家 史郎 非常勤講師 後学期 2-0-0

本講義は、現代日本政治の基礎的理解を目的とする。政治家や有権者の政治的行動、また各政治的制度の機能に関する理論的・実証的検討を通じ、日本政治の動態に関する理解を深め、実践的には一市民として今後の政治行動（投票など）の指針を得ることを目標とする。教科書はとくに定めず、担当教員の作成する配布資料を適宜用いながら講義を進める。

1. 政治的制度（政治体制、選挙制度）
2. 政治的対立軸
3. 政治過程モデル
4. 政治家と政党
5. 有権者の政治意識と行動

経済分析入門 (Economic Analysis: Introduction)

大和 毅彦 教授 °樋口 洋一郎 教授 前学期 2-0-0

この講義では、文系科目と思われがちな経済学が実は社会や経済の問題を考える上での基礎的な科学であり、理系的な解析力が必要不可欠であることを1年次生に広く知ってもらい、経済分析へ関心をもってもらったために行う。第1部では経済と経済学理論について、第2部では経済学により提案された政策の効果をいかに実証するかを話題とする。

ミクロ経済学 (Micro Economics)

佐藤 崇 非常勤講師 前学期 2-0-0

現代の全ての経済学の基礎となっているミクロ経済学の入門的な内容を講義します。文系基礎科目という講義の性質上、理論そのものを詳述するというより、ミクロ経済学を使って現実の経済社会現象をどのように説明できるかの紹介に重点を置きたいと思っています。

マクロ経済学 (Macro Economics)

未定 非常勤講師 後学期 2-0-0

本講義では、一国全体の経済を分析の対象とするマクロ経済学を講義し、一国全体の経済がどのように決まるのか、そこで生じる経済問題に対して、政府・中央銀行が行う財政政策や金融政策はどのような役割を果たすのかということについて解説します。この講義では、具体的には、国民所得統計、GDPの決定、資産市場、財政政策と金融政策の効果、失業とインフレーション・デフレーションなどについて取り上げます。本講義を通じて、マクロ経済学についての理解を深め、90年代以降の日本の長期不況やサブプライム問題以降の世界金融危機など、現実のマクロ経済に生じている諸問題について、自ら考察できるようになることを目指します。

国際経済論 (International Economics)

未定 非常勤講師 後学期 2-0-0

本講義では、国境を越えたモノ・サービスの取引を扱う国際貿易と国境を越えたカネの取引を扱う国際金融についての基礎的な内容について講義します。この講義では、具体的には、貿易の利益、貿易パターンの決定、貿易政策の効果、国際収支、開放経済における財政政策・金融政策の効果、為替レートの決定などについての解説を行います。国際化が進展する中で、グローバルな経済活動に参加することを余儀なくされている今日、本講義を通じて、国際経済についての理解を深めることによって、現実には生じている複数の国にまたがる様々な経済取引を、自ら理解し、分析できるようになることを目標とします。

社会学基礎 (Foundation of Sociology)

今田 高俊 教授 前学期 2-0-0

本講義では、社会学の基礎的な考え方について学習する。社会学とはどのような学問であるかに始まり、社会的事実の蒐集法、分析の方法とレベル、社会化と人間形成、社会参加の諸形式、逸脱行動などを中心に講義する。

社会学応用 (Application of Sociology)

今田 高俊 教授 後学期 2-0-0

本講義では、年齢・性・階級などによって分割されている社会状態、家族問題、技術と社会変動、都市化と生活の質など、日本社会の現実分析をまじえながら、具体的な社会現象を把握する応用論を講義する。

宗教社会学 (Sociology of Religion)

橋爪 大三郎 教授 前学期 2-0-0

ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、仏教、儒教など主要な宗教を比較して論ずる。宗教という人類最大の文化遺産を通して、人間社会の過去・現在・未来を考える。余裕があれば、国際社会の問題についても触れる予定。

理論社会学 (Theoretical Sociology)

(平成24年度休講)

橋爪 大三郎 教授 後学期 2-0-0

社会という現象を研究するのに、どういう方法が有効なのか、過去の優れた理論家たちの苦闘を紹介する。この数年は、軍事社会学をテーマとし、クラウゼヴィッツ、リデル・ハート、マハン、グロチウス、孫子などをとりあげている。

数理社会学第一 (Mathematical Sociology I)

中丸 麻由子 准教授 前学期 2-0-0

人間行動や社会を捉える上で、人間も生物の一員であり進化の賜物である以上、進化生物学的観点も必要である。講義では進化理論の基礎から始め、進化ゲーム理論の人間行動・社会研究への適用例を中心に紹介する。そして進化生物学的観点と数理モデルからどこまで人間社会や行動の本質が明らかになるのか探っていきたい。

数理社会学第二 (Mathematical Sociology II)

中丸 麻由子 准教授 後学期 2-0-0

この講義では主に微分方程式によるエポックメイキングな社会の数理モデルを紹介する。数理モデルによる社会研究の長所・短所、そして現実のデータとの対応も示しながら、モデル作りの基本的な考え方を講義する。数理モデルの解析方法を示しつつ、Excelを用いた数値計算実習によってモデルの挙動を実体験する。この講義を通して、数理モデルによっ

てどこまで社会研究が可能なのか、不可能な点があるとしたら何であるのか考えてみて欲しい。

科学概論第一 (General Science I)

梶 雅範 准教授 前学期 2-0-0

自然科学・技術の本質、その方法、その社会的機能などについて、科学の通史を通して講義する。第一では、科学の誕生から近代科学の成立さらに19世紀までの通史をとりあげる。科学的方法、科学的自然観についても考える。

科学概論第二 (General Science II)

梶 雅範 准教授 後学期 2-0-0

第一をひきつぎ19世紀以降、現代にいたるまでの科学の通史を題材として科学・技術について考える。適宜、日本の事例や東工大の歴史についても触れる。

現代技術史 (History of Modern Technology)

中島 秀人 教授 後学期 2-0-0

現代の技術システムがどのように形成されたかについて、産業革命以降の発展に焦点を当てて論じる。科学と技術の融合、そして社会の「マス化」が授業の中心となる。このプロセスを完成したアメリカ、さらに技術を支える研究所などの制度についても議論し、20世紀がいかなる時代だったかを、社会の科学技術化という観点から考える。できる限りAVを活用する。授業の評価は、試験50%、出席50%目やすとする。教科書を授業で指定する（技術史1と同じ教科書）。

技術史第一 (History of Technology I)

中島 秀人 教授 前学期 2-0-0

現代社会において、技術は人類の未来を左右する大きな役割を果たしている。本講義では、このような問題を考えるための基礎としての技術史を扱う。

具体的には、古代から産業革命直前までの時期を対象とする。特に、通常軽視されがちな中世の技術にも焦点を当て、これが近代技術とどのようなつながりを持つのかを考察する。できる限りAVを活用する。授業の評価は、試験50%、出席50%を目やすとする。教科書を授業で指定する（現代技術史と同じ教科書）。

技術史第二 (History of Technology II)

佐野 正博 非常勤講師 後学期 2-0-0

産業革命期から現代に至るまでの技術の歴史的発展プロセスを取り扱う。「市場ニーズと技術的シーズが技術の歴史的展開プロセスをどのように規定してきたのか?」「自然科学的認識が技術発展にどのような役割を果たしてきたのか?」などの問題を具体的に取り扱い、様々な分野の技術発展の相互連関と連鎖的発展構造を総合的に考察する。またそうした歴史的考察を通じて、製品の機能や性能を規定している「製品」技術、製品の製造コスト・生産性・品質などを規定している「製造」技術の差異と連関といった視点から技術の歴史的展開構造の解明をおこなう。

日本技術史 (History of Technology in Japan)

(平成24年度休講)

未 定 前学期 2-0-0

日本の技術発展は、とくに戦後めざましいものがあるが、その明治時代から今日にいたるまでの発展過程を通史的に見ることによって、日本技術および日本「技術者」を考える。発展の全体構造、第二次大戦までの日本技術の展開と問題点、大戦後の技術発展の構造、現代日本技術論、ハイテクと技術構造、日本技術と世界技術、技術進歩と環境・社会問題、日

本技術者論などを取上げる。

科学方法論 (Philosophy and Methodology of Science)

田子山 和歌子 非常勤講師 前学期 2-0-0

本講義においては、自然科学の知の構築に不可欠な様々な基礎概念について考えたいと思います。たとえば「法則」は自然科学にとって重要な概念であると思われます。しかし、法則とはそもそも何でしょうか。こうした疑問を、本講義では、自然科学的方法論構築に自覚的に組み込んだヨーロッパ17世紀の思想に焦点を当て考えたいと思います。本講義では、当時の文献（テキスト）を丁寧に読解・分析することを課題にします。客観的に見える自然学的概念も、実は、神が世界をどのようなプログラムの下で造ったのか、という、神学的、形而上学的理解と密接に関係しており、それゆえ解釈は多様で一義的なものではないことに却って気付かされるでしょう。

科学史第一 (History of Science I)

佐藤 賢一 非常勤講師 前学期 2-0-0

東アジア地域（中国・朝鮮・琉球・日本）における近代以前の数学史を概観する講義を行う。必要に応じて西欧の数学史との比較も行うが、できる限り、「漢字」・「中国語」で表記された伝統数学の実態を紹介していきたい。

科学史第二 (History of Science II)

矢島 道子 非常勤講師 後学期 2-0-0

この講義では古代から現代に至る科学の歴史を、古生物学や地質学の歴史を通して概観してゆく。

毎年どこかで恐竜の展覧会が行われるが、それだけ恐竜の好きな人が多いということであろう。もっとも、恐竜は人類が地球上に出現する前に絶滅している。展覧会を開けるのも、化石の破片から恐竜を復元する学問すなわち古生物学が確立しているからにはほかならない。では古生物学はどのように確立してきたのであろうか。地球の学問の歴史、化石の学問の歴史をたどってみる。

古代から現代に至る科学の歴史をたどってゆくと、16, 17世紀からだんだんと近代化され、現代化されていくのがよく理解されるはずである。この講義ではさらに、それぞれの時代で科学が社会の中でどんな位置にあったかも見ていく。また、女性が科学の中でどんな位置にあったかということも考えていく。

こうした試みをつうじて、科学の歴史の時間軸と空間軸（どんな社会で、どんな人々が担ったかなど）を形成し科学の「いま」への理解を深めることができるはずである。

科学の社会史 (Social History of Science)

(平成24年度休講)

梶 雅範 准教授 前学期 2-0-0

主として近代以降のヨーロッパにおける科学の歴史を通して、科学と社会の相互作用、科学の社会的・文化的側面について考えていく。大学と学会、科学と技術、科学の制度化、科学の専門家と職業化、各国での科学研究の在り方の比較、戦争と科学、科学と産業、科学とイデオロギー、冷戦後の科学、環境問題と科学などのテーマを取り上げる。

日本科学史 (History of Science in Japan)

(平成24年度休講)

梶 雅範 准教授 後学期 2-0-0

近世以降の日本の科学研究の社会におけるあり方の歴史的変化について講義する。蘭学の成立と展開、お雇い外国人、高等教育制度の成立、科学研究の自立、諸研究機関の成立、日本の科学者、女性と科学、戦争と科学、戦後の科学・技術

などのテーマを取り上げる。

生命倫理学 (Bioethics)

吉武 久美子 非常勤講師 前学期 2-0-0

生命倫理学の基本的な考え方と問題を理解した上で、科学技術者として、生命を扱う専門家、行政担当者として、あるいは、患者として、その家族として、さらには一人の人間として、生命倫理の諸問題に対していかに行為すべきかを考える能力を養う。

科学技術者倫理 (Ethics in Engineering)

中村 昌允 非常勤講師 後学期 2-0-0

技術者は、新規技術の創造とともに、開発成果を実用化し社会に貢献することが求められている。21世紀は、資源・エネルギーが枯渇し、食料が不足する。この状況下で人類が生存していくには、科学技術なしには成り立たない。しかし、新しい技術には未知のリスクが潜んでいる。このリスクを最小化し、危害をもたさないことが技術者に求められている。

昨年 福島第一原発で地震による津波のために深刻な事故が起きた。この事故は科学技術に携わる者にとって、科学技術には完璧なものではなく、失敗の積み重ねの上に今日があることを再認識させられ、科学技術者はいかにあるべきかを考えさせられた。

現代の科学技術は、高度化し細分化されているので、その是非はその分野の専門家でないといけない。一つの分野の専門家も他の分野では公衆の一人である。すなわち現代社会は、それぞれの分野の専門家がその分野で最善を尽くすことを信頼し、相互に依存しあうことによって成り立っている。技術者が社会的責任を果たすには、一人ひとりが倫理観に則って、技術に忠実に判断し、正直にかつ誠実に業務を遂行することが求められる。

多くの事故原因を調べると、「大丈夫」と思ったという判断に基づいているが、その判断はほとんどが現場にいる技術者によって行われている。このことは技術者が事故を防ぐ最も大きな可能性を有しており、その責任が大きいことを示している。結局は、「危ない」と思うかどうかになるが、この「リスク感性」は先天的なものではなく、キャリアを積むことによってはじめて身に付くものである。しかし、キャリアを積むことは容易なことではなく、それを待っていることはできない。

本授業は多くの実際の事故事例を取り上げる。そして、事例の当事者の立場で、「私ならどう判断し、行動するか」を考える。すなわち、事例を「仮想体験」することによって、一人ひとりが自らの判断・行動基準を持つように進めていく。

一方、技術者は多くの場合、組織に属して仕事をしており、技術者としての良心と組織への忠誠を図ることとのジレンマに陥ることがある。このジレンマをいかにして乗り越えるかも課題である。技術者の思いを経営の意思決定に反映できなかった事例も多い。このような現実の問題も一緒に考えていきたい。

参考図書：中村昌允「技術者倫理とリスクマネジメント」オーム社（2012年）

環境・社会論 (The Theory of Environmental Protection)

伊瀬 洋昭 非常勤講師 歌川 学 非常勤講師 後学期 2-0-0

私たちが直面しているさまざまな環境問題について、社会的側面から整理・分析し、受講生にとって考えるべき論点・課題がより明確になる、そのことを目指して講義をすすめる。環境問題などの「現代的課題」に対しては、安易な結論に安住して思考停止状態になることを避け、より本質的な課題について検討し続けていくことこそが、重要だと考えるからである。

社会的側面から見たとき環境問題には、局所的なものにも地球規模のものにも共通する面を見出すことができるし、薬

害や一般に人間の健康の問題、技術の安全性と事故の問題、資源問題やゴミ問題、自然災害を防ぐ問題などと密接に関連する面も見出すことができる。そのような連関を視野に入れながら、いくつかの歴史上の事例を題材としてとり上げて検討を加える。

社会の理工学そして芸術 (Theory and Technology for Society and Arts)

肥田野 登 教授 後学期 2-0-0

この講義は人間によって構成される社会の理学と工学を考えてみようというものです。数式を使う理論、言語を使う理論など、社会の理学の可能性を探ります。そして問題解決につながる社会の工学の考え方を学ぶとともに社会の理学との関係を考察します。また具体的に社会の理学と工学を理解するために演習を行います。さらに社会の理学と工学の問題点と新たな可能性を、芸術を媒介として考え、またその創作によって追求します。

統計学基礎(Basic Statistics 1)

谷口 尚子 准教授 前学期 2-0-0

学問・実務のおよそどのような分野であっても、「データ」は取得され得る。統計学やそれに基づく分析手法は、取得されたデータから有用な情報を引き出したり、仮説や主張を実証するのに役立つ。本講義では、その統計的思考と統計手法の基礎を解説する。

統計学応用 (Basic Statistics 2)

谷口 尚子 准教授 後学期 2-0-0

前期開講「統計学基礎」の知識を踏まえ、本講義では、研究や実務に役立つ統計分析手法の基礎を学ぶ。統計分析の考え方と基礎理論を紹介した後、統計分析ソフトを使って基本的分析を実践してもらう。扱う手法は、様々な検定、分散分析、回帰分析、因子分析、共分散構造分析など。

交渉の科学 (Negotiation Science)

木嶋 恭一 教授 前学期 2-0-0

個人や企業・地方自治体・政府などあらゆる局面でみられる広い意味での相互作用である交渉を、システム論の視点からアプローチする。人間や組織間の交渉の構造と過程を記述する数理的モデル、主体間の交渉が提携を形成する過程に注目するシミュレーションアプローチなどについて説明する。さらに、ビジネスにおける交渉・自己主張など実践的な話題についても言及する。なお、履修者の人数制限を行うことがある。

社会ネットワーク理論 (Social Network and Decision Making)

猪原 健弘 教授 前学期 2-0-0

私たちは、他の多くの人と共に社会ネットワークを形成している。また、社会ネットワークの中での私たちの暮らしは意思決定の連続である。その意思決定は互いに他者に影響を及ぼし、さらに社会ネットワーク全体の振る舞いにも影響を与える。この講義では、特に、「私たちが他者に対して持っている態度」に注目して、私たちの意思決定と社会ネットワークの振る舞いの間の関係を数理的に調べていく。

合理的思考の技術 (Techniques for Rational Analysis)

小林 憲正 助教 前学期 2-0-0

意思決定分析とその応用であるゲーム論を中心に講義を行う。モデルの扱い自体になれるのと同時に、モデルを身近な

現実問題に適用するトレーニングを積むことにより、自分で考える力を強化することを狙いとする。

クラス内でのクイズや実験を多用し、インタラクティブに講義を行う。

ファッション政策論 (Fashion Policy)

中村 仁 非常勤講師 前学期 2-0-0

近年日本を発信源とする、ファッションやアニメーション、映画、ゲーム、音楽などの文化が海外において高い評価を受ける事例が増加している。特にリアルクローズファッションはアニメーションやゲームに続き、日本が発信する文化として新たな注目を集めている。この現象は、外国の人々が日本に対する共感と信頼を高めることにつながるとともに、産業としての国際競争力も増加することが期待されている。行政もこの流れを支援するため、さまざまな施策を行っている。この講義は、ファッション等のクリエイティブ産業を例として、これからの時代の産業政策を概観する。

なお、必要に応じて同分野の実務家をゲストスピーカーとして招へいする。

現代日本を知るために (Knowing Japan now)

池上 彰 教授 前学期 1-1-0

あなたが暮らす現代の日本。政治にしても経済にしても、なぜこうなっているのか、疑問に思うことが多いのではないだろうか。そこには、これまでの歴史の積み重ねがあるからだ。

高校までの授業では、第二次世界大戦までの歴史は学んでも、その後については、カットされたり、駆け足で過ぎたりしがちなのが現状だ。それでは社会人としての教養に欠けることになる。本科目は、その欠落部分を少しでも埋め、大学での各種科目への橋渡しをすることを目的とする。

扱うテーマは、自衛隊、安保条約、高度経済成長、公害問題、沖縄の基地問題、学生の反乱、バブルの発生と終結、政権交代など多岐にわたる予定。「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」。

現代世界を知るために (Knowing the world now)

池上 彰 教授 後学期 2-0-0

アメリカやロシア、中国は、なぜ核兵器を持っているのか。「ベルリンの壁」とは何だったのか。朝鮮半島はなぜ分断されているのか。中東はなぜ血なまぐさいのか。「ユーロ危機」はなぜ起きたのか。あなたは、疑問に思ったことがないだろうか。

この背景を知るだけで、あなたの「現代世界」への洞察は深くなるはずだ。

高校の授業ではとくにおおざりにされがちな第二次世界大戦後の世界について概観し、大学での各種科目への橋渡しをすることを目的とする。

文系発展科目 (文系専修)

社会的合意形成の技法 (Technics of Social Consensus Building)

桑子 敏雄 教授 前学期 1-1-0

現在、地方分権や住民参加の推進などによって、行政と住民、住民と住民の話し合いの機会が多くなっています。社会基盤整備や環境問題をめぐる対立や紛争を解決するための不特定多数を対象とする合意形成では、説明責任や透明性の確保、コミュニケーションの技術など、会議や集会を設計、運営、進行するための基本的な思想とそれを実現するための技術が求められています。本講義では、社会的合意形成の考え方と手法を論じます。

Topics on Japan II 英語で学ぶ日本事情 II

佐藤 由利子 准教授 前学期 1-1-0

Through this course, regular students (Japanese and Int' l) and exchange students from overseas partner universities are expected to deepen their understanding of Japan and the Japanese society in comparison with other countries through lectures, discussions and presentations. All classes will be conducted in English.

While Topics on Japan (TOJ) I, starting from October, deals with basic knowledge of Japan and the Japanese society, TOJ II aims at deepening students' understanding further, by dealing with topics such as economy, politics and gender. In the last part of the course, students are expected to explore the characteristics of Japan and the Japanese society themselves by making presentations on 'Discovery of Japan'.

Class participants are encouraged to exchange with the classmates of different nationalities and to understand other values and cultures than their own.

Please challenge and enjoy this course!

政治分析法 (Political Methodology)

谷口 尚子 准教授 前学期 1-1-0

現代政治学においては研究方法論 (Methodology) の発展が著しい。とりわけ量的研究手法は、大規模データの統計分析、実験的検証、シミュレーション、脳科学など、自然科学の手法と親和的である。本講義では、政治現象を多面的に分析するこれらの方法を学ぶ。

Topics on Japan I 英語で学ぶ日本事情 I SC : (H23登録) 創造性育成科目

佐藤 由利子 准教授 後学期 1-1-0

Through this course, regular students (Japanese and Int' l) and exchange students from overseas partner universities are expected to deepen their understanding of Japan and the Japanese society in comparison with other countries through lectures, discussions, presentations and visit to a relevant place. All classes will be conducted in English.

Topics on Japan (TOJ) I mainly deals with basic knowledge of Japan such as history and education, while TOJ II, starting from April, aims at deepening students' understanding of Japan further. In the middle of TOJ I course, students are expected to make a group presentation on 'My country and home town' to promote mutual understanding.

Students are encouraged to exchange with classmates of different nationalities and to understand other values and cultures than their own.

Please challenge and enjoy this course!

科学・技術・社会 (Science and Technology Studies)

中島 秀人 教授 後学期 1-1-0

科学技術の成果が社会に深く浸透するに伴って、その負の影響が懸念されるようになっているのは周知のことである。1999年には、世界の科学者、技術者がブダペスト宣言を採択したが、そこでも、科学をどのように社会に役立てるかが重要な課題とされた。この授業では、科学技術社会論という新しい学問分野の立場から、科学・技術・社会のあるべき関係についていくつかの本を取り上げ、ゼミ形式で議論する。具体的な内容については、初回に説明する。授業の評価は、議論への参加50%、出席50%を目やすとする。

現代の音楽とテクノロジー (Contemporary Music and Technology)

往住 彰文 教授 後学期 1-1-0

20世紀、21世紀の音楽を対象として、テクノロジーと音楽との協調のありさまを概観する。どの回でも、音楽の実際を視聴しながら、音楽体験と音楽分析を対比する。

作曲、鑑賞の両面から、現代音楽におけるテクノロジーの役割について分析する。ParisのIRCAM（音響音楽研究所）とStanford大学のCCRMA（計算音楽音響研究所）の活動を紹介しながら、現代音楽の最先端の動向を学ぶ。また、WebテクノロジーやAIにおける音楽の展開も学ぶ。

集団意思決定理論 (Group Decision Making)

(平成24年度休講)

猪原 健弘 教授 後学期 1-1-0

会議や委員会での意思決定や、選挙による代表者選出など、通常、複数の意思決定主体によって行われる意思決定を「集団意思決定」と呼ぶ。集団意思決定では、最終的な決定が採決を通じて行われることが多いが、採決以前に意思決定主体の間で情報交換が行われることが普通である。この講義では、集団意思決定の中での情報交換における、各意思決定主体の意見の柔軟性に注目し、情報交換と意思決定の結果の間の関係について調べていきたい。

As in a meeting and in an election, decision making in which many decision makers are involved is called group decision making. The final decision in a group decision making situation is usually provided through a voting, and decision makers interact with each other before the voting. In this lecture, considering the flexibility of decision makers, we examine the relations between information exchange among decision makers and the final decision.

現代世界の歩き方 (Walking around the world)

池上 彰 教授 前学期 1-1-0

被爆国・日本は、なぜ原子力発電を推進したのか。憲法とはそもそもどんな存在か。「憲法9条」をめぐる論議とは何か。株式会社は誰のものか。君たちは将来年金を受け取れるのか。テレビはなぜ視聴率競争をするのか。「アラブの春」とは何だったのか。アメリカの大統領選挙は、なぜあれほど盛り上がるのか。北朝鮮は、なぜ「奇妙な国」なのか。

日本と世界の現状と、その背景を知ることによって、あなたは「現代世界」をひとりで歩けるようになるだろう。

(文系ゼミ)

文系ゼミ第一～第六 (Advanced Humanities and Social Sciences I～VI)

各教員 各0-2-0

人文科学，社会科学についての深化した学習を通じて，文系学問の深い素養と思考法を修得することをめざす。少人数制を原則としたこの科目は，各授業担当教員により，開講形態，対象学年などが大幅に異なるので，「教授細目」（シラバス）」を参照されたい。

総合科目

総合科目 (General Course on Humanities, Science and Technology)

各教員 前学期 後学期 2-0-0

総合科目は，従来の学問分野の区分けを超えて，異なる文系同士，あるいは文系と理工系とが融合またはクロス・オーバーするような学際的・広域的テーマについて，複数の教員が共同で開く科目である。各クラスの授業担当教員，テーマ，内容については，「教授細目（シラバス）」を参照されたい。